

ます。遷座300年を迎えた1996年日本媽祖会の協力と北港朝天宮をはじめ多くの台湾の皆様の手添えを頂き祭具と新たな媽祖像をそろえ行列が行われるようになりました。2014年には今後の交流を深めるため町から19名で朝天宮を参拝し熱烈歓迎を受けて参りました。その事が有ってか2016年海の日の天妃様行列に朝天宮より10名の方が訪問して下さいました。他にも、むつ市と共に高雄市国際同済会の皆様との交流をさせて頂きましたし、青森県と共に台北の航空会社や旅行会社へのPRを行う事も出来ました。

今後青森県日華親善協会の力添えを頂きさらに交流を深める事が出来ればと考えています。



北港朝天宮からお出での皆様

台湾旅行の思い出

気象予報士・防災士 工藤 淳

1回目の台湾訪問は、2010年10月の日本防災士会主催の研修旅行。全国から11名が参加し、チーム青森は妻も含めてダントツの4名。被災小学校を「地震教育園」として残してあったのがとても新鮮だった。また、アジアNo.1の規模とされる「内政部消防署訓練センター」はテロも含めたすべての大規模災害の実地研修ができるという素晴らしい施設で、民間人の見学は私たちが初めてということで政府高官から大歓迎された。

台湾旅行はこれが最初で最後と思っていたら、はからずも山崎晃子さんのお誘いで2014年3月に、青森県日華親善協会の台湾視察旅行に参加することができた。

今回もなぜか参加者は11名。そのうち7名は初対面。出発前の青森空港からトラブルが発生し、台湾へ到着した夜に母親の訃報がメールで届くなど記憶に残る旅行となった。

また、少数ながら県内の名士ばかり。中でも親しくさせてもらった大島勢津さんは今や衆院議長の妻。台湾は80回位という先輩など、海外旅行初心者には私くらい。

印象深い出来事は数々あったが、何とんでも女性4人衆のパワフルさ。飛行機を乗り継いで台北での深夜の買い物。興味津々でボディガードと称して同行。タクシーで目当てのお店に直行したら閉店直前。そこはバッグの専門店。おかげで私も、妻・娘・息子の嫁達にお土産のバッグを購入。

夕食後は客室での酒宴と尽きない多岐に渡る情報交換。松山空港から花蓮へのプロペラ機での移動。3日間同室したビオラの三戸さんには本当にお世話になりました。楽しくも日華親善のミッションに寄与できた満足感で一杯の旅でした。

2回とも共通したのは、台湾政府の想像以上の歓待ぶり。青森県日華親善協会の益々の末永〜い活動を期待しています。



台湾について

別稿として、ご存知の方も多いと思いますが、現在の台湾の基盤にある、戦後の政治事情について記します。

第二次大戦終了まで、台湾が日本に統治されていたことや、戦後、国民党の蒋介石総統の中華民国に引き渡され、その後国共（国民党と共産党）内戦に敗れた中華民国政府の台湾への移動に伴い、いわゆる毛沢東主席率いる大陸の中華人民共和国と蒋介石総統率いる台湾の中華民国の対立情勢がスタートしたことは、ご存知のことと思います。その後、中華人民共和国の国連加盟と、反発した中華民国の脱退などいろいろなことがあり、現在、日本も台湾

とは正式な国交関係になっておらず、そのため、謝代表は本来の駐日大使という肩書が使えない事情にあるわけです。

そして、戦後の蒋介石・国民党政府の台湾移動に伴い、台湾情勢は大変化しました。日本統治時代からの台湾に住んでいた「内省人」、蒋介石総統と共に大陸から台湾に来た「外省人」に大別され、台湾の実権は「外省人」が独占、初期には、内省人による独立運動や、それに対する弾圧もありました。

ようやく、いわゆる「民主化」が進んだのは、蒋介石総統の息子・蔣経国総統の時代、1980年代になってからだ、私は思っています。建前の大陸反攻政策の限界を見据え、外省人と内省人の対立緩和を図り、後継の第3代総統に、蔣家からでも、外省人からでもなく、内省人で京都大学卒の李登輝副総統を